

令和 8 年 3 月 6 日

◆藤井深介委員

公明党の藤井深介です。よろしくお願いします。

それでは最初に、かながわ観光連携エリアに係る取組について伺っていききたいと思います。

先行会派でも質疑がいろいろありましたけれども、かながわ観光連携エリア推進事業に関しては、私の地元である平塚は、湘南西エリアに参画しておりますので、今年度の実施状況と今後の取組について何点か伺っていききたいと思います。

初めに、湘南西エリアの形成に至るまでの経緯についてまず伺います。

◎観光課長

湘南西エリアを形成した経緯でございますが、まず湘南西エリアでは、観光の核づくり事業において、大磯を核づくり地域として認定し、地域が主体的に行う取組を支援してまいりました。昨年度、観光の核づくり事業を、点への成果を面へと広げるため、核づくり地域とその周辺地域による連携エリアを形成することとし、市町村の意向や地理的特性、行政上の連携体制などを考慮し、観光の核づくり地域である大磯町に相模川以西の平塚市、小田原市、二宮町を加えた 2 市 2 町により湘南西エリアを形成いたしました。

◆藤井深介委員

今、御答弁いただいたんですけれども、大磯町を中心にして考えて、その周辺ということで、平塚、それから二宮町とあるんですけれども、その中で、私自身の感覚としては、小田原が入っているということが、エリアとしてはちょっと違うかなとも思ったりもしたので、ちょっと参画したその理由を伺いたいと思います。

◎観光課長

小田原市には、小田原城、江之浦測候所、松永記念館や旧三淵亭・甘柑荘などの歴史ある邸宅、漁港の駅 T O T O C O 小田原など、魅力的な観光コンテンツが多くあり、湘南西エリアにおける取組の検討に幅が広がることですか、また東海道新幹線をはじめ、多くの路線が乗り入れる小田原駅を有し、隣接する箱根町など、多くの観光客が訪れる観光地からの誘客も期待できるため、小田原市に参画していただきました。

◆藤井深介委員

それでは、この湘南西エリアということで、今、幅が広がっていくということでの御答弁、頂いたんですけれども、今後どのような将来像を描いているのか、お聞かせいただきたいと思います。

◎観光課長

昨年度、湘南西エリアが策定した観光戦略では、エリアに共通する庭園文化や、歴史的なコンテンツ、花のコンテンツなどを拡充し、テーマ別、シーズン別の地域の楽しみ方、巡り方を提供することで、これらに関心の高いシニア層の来訪の拡大や来訪回数の増加を図ることや、海沿いならではの農漁業体験や、ゆったりと暮らすような旅を提供できるコンテンツづくりに取り組み、若年層や子育て世帯の獲得を目指しております。

また、将来的には、日本の精神性や文化に関心のある欧米豪層や、フォトジェニックな景観を求める東南アジア層の獲得も目指すこととしております。

◆藤井深介委員

かなり広いところまで考えていただいているということなのですが、まず細かくなのですが、今年度、湘南西エリアを構成する市町村のそれぞれどういった取組を実施するのか、お聞かせ願います。

◎観光課長

湘南西エリアでは、例えば海沿いならではの果樹栽培や漁業などの産業が根づいていることから、地域の産品を生かした取組として、小田原市がエリア内の食の魅力をPRするイベントを行ったほか、エリアの歴史・文化を生かした取組として、大磯町が国指定重要無形民俗文化財である大磯の左義長の開催日に合わせて、大磯港と小田原港を相互に海上で結ぶクルージングや、専門ガイドによる大磯の左義長ゆかりの道祖神巡りや、小田原市の板橋地区の別邸文化を感じる街歩きを組み込んだツアーなどを実施いたしました。

◆藤井深介委員

代表的なところで、小田原と大磯ということで、実施状況をお聞かせいただいたんですが、そこで県は連携エリアに対してどういった支援を行っているのか、改めて確認をさせてください。

◎観光課長

かながわ観光連携エリア推進事業は、各エリアが主体的に行うエリア内の周遊を促進する取組などを県が後押しするもので、県は今年度から補助金による支援を行うとともに、かながわDMOと協力し、エリア内の会議運営や、観光データを活用した取組の具体化支援などを通じたエリア内の連携強化などの側面的な支援、それから国内外へのプロモーション支援に取り組んでおります。

◆藤井深介委員

今、御答弁いただいた国内外へのプロモーション支援なんですけれども、具体的な内容についてはどういったものがあるのか、お聞かせください。

◎観光課長

各エリアに、国内外から多くの観光客に来訪していただくためには、認知度の

向上を図る取組も必要です。そこで県は、かながわDMOと協力し、各エリアの特色を分かりやすくアピールするため、ロゴ、キャッチコピーを作成しました。また、観光情報ウェブサイト、観光かながわNowの中に連携エリアの特設ウェブページを開設し、各エリアの観光スポット、モデルコース、動画などを掲載し、その魅力を発信しております。

◆藤井深介委員

今、御答弁いただいた中で、湘南西エリアのロゴとかキャッチコピーのお話があったんですが、その概要とコンセプトについて教えてください。

◎観光課長

ロゴ、キャッチコピーは、かながわDMOが各エリアの市町村の意向を確認しながら、エリアが有する観光資源や強みなどを踏まえ、プロモーションのターゲットを設定した上で作成し、各エリアで決定されました。

湘南西エリアは、主なターゲットを都心の30代から40代のファミリーに置き、日本の近現代の歴史や分野、農漁業体験などの子供との学びに興味がある層へ向けたプロモーションを展開することとし、キャッチコピーは湘南ノスタルジック街道、ロゴは湘南西部の海、太陽、松など、エリアを象徴する豊かな自然環境と海辺のまちの落ち着いた海岸線の魅力を表現し、訪れる人々に安らぎと安心感を与えるデザインとしました。

◆藤井深介委員

ノスタルジック街道ということで、コメントを頂きましたけれども、歴史とか文化ということで、それを中心に考えていただいたんだろうというふうに思います。

30代から40代、それから子育てをしているそういう世代ということなんですが、今後、この湘南西エリア、盛り上げていく、まだまだ今お話あったとおり、認知度というのは低いんだろうと思いますけれども、さらに盛り上げていくためにどのように取り組んでいこうとされているのか、お聞かせいただけますか。

◎観光課長

湘南西エリアが目指す将来像の実現に向けては、市町に加えまして、民間事業者を巻き込んでいくことが重要であると考えております。そこで、民間事業者の参入促進に向け、補助制度について補助対象経費の拡充や、公募制度の導入など、制度の見直しを検討していきます。

また、連携エリアの認知度向上を図るため、引き続き特設ウェブページ等を通じてPRするとともに、各エリアの市町村はじめとした補助事業者が補助金を活用して実施する取組を広報、宣伝する際には、ロゴ等を活用するよう促していきたいと考えております。

GREEN×EKPO 2027 や神奈川・横浜デスティネーションキャンペーンといった好機をしっかりと捉えられるよう、湘南西エリアの取組を加速化させ、

国内外から多くの観光客が訪れる観光地域づくりを後押ししてまいります。

◆藤井深介委員

分かりました。ちょっと要望方々いろいろ意見を言わせていただきたいんですが、湘南西エリア、平塚、大磯、二宮、小田原ということなんですけれども、旅行者、また日帰りの方も含めてですけれども、やっぱり動線考えていくと、どうしても東海道線がうまく連携していく形だろうかと思います。

小田急だとか新幹線もそうなんですけれども、新幹線となると今度、横浜からいきなり小田原ということになるので、なかなかこの四つの2市2町というところの連携、ちょっと細かい見方なのかも知れないけれども、ちょっとやっぱり、どうしても起点は、東海道線のそれぞれの駅になろうと思うので、そこからいかに市内だとか、当然、小田原漁港なんかでもそうですけれども、どういうふうにそれぞれの地元で、そういうバスなのかタクシーなのか分かりませんが、電車を利用した関係でいくとやっぱりそういう新たな動線というか、それは地元と本当にしっかり協議していかないと、広がりというのはなかなか、駅周辺で収まってしまうということになるので、全体的な広がりというのは、なかなか難しいかなというふうに思いますので、その辺はまたしっかり市町とも協議していただきたいというふうに思います。

例えば、明治記念庭園にしても駐車場もそんなに広くもないし、車、またタクシー、バスも含めて、ちょっとそういった駐車場問題もまた出てこようかとも思いますし、そういったところ、またぜひいろいろ地元とも協議していただければというふうに思います。

今回の湘南西エリアには入っていないんですが、茅ヶ崎に道の駅湘南ちがさきできて、平塚にシーテラスという、1か月ちょいぐらいで、26万人ということで。すぐ近くにできたわけですね。まあ箱根駅伝の選手なんかだと、あっという間に着くぐらいの距離だとは思いますが。当然エリア内、またはそのエリア周辺、それと市町との連携というものもあると思いますので、そういったところ、またうまく周辺のところとも併せて、広域自治体ならではの対策というものもぜひ生かしていただければなというふうに思いますので、よろしく願いをいたします。

次に、県民ホール休館中の地域展開事業についてお聞かせいただきたいと思います。

県民ホールが休館となる中、県として引き続き、県民に質の高い文化芸術を鑑賞する機会を提供していただいております、県内各地に出向いて、公演等を実施していただいていることを大変私自身も喜んでおります、ありがたいと思います。

その中で、取組の一つとして、年末、小田原で行われましたファンタスティック・ガラコンサート、見に行かせていただきました。非常によかったです。そのよかったところをまた後ほど述べたいと思いますが、こういった県民ホール休館中の地域展開事業について何点かお聞きしたいというふうに思います。

初めに、ファンタスティック・ガラコンサート、これもう長く県民ホールで、私も何度も鑑賞させていただきましたけれども、続けてきたものであります。そ

れで、そもそものあれになりますけれども、いつから行われていて、どのような内容だったのか、基本的なところからお伺いいたします。

◎県民ホール再整備担当課長

ファンタスティック・ガラコンサートは、県民ホールの第1期指定管理が導入された平成18年度に、芸術性も高く、集客が見込める新しい企画として始まりました。県民ホールで行われていた際には、オーケストラ、オペラ、バレエの三つの芸術が同時に堪能できるのが最大の特徴でございまして、華やかなテーマを選ぶことが多く、年末の恒例行事として、多くの方に親しまれていました。

◆藤井深介委員

それでは、今年度から県民ホールの外に出て、実施していただいておりますけれども、開催内容だとか観客数について確認をさせていただきたいというふうに思います。実施に当たって、県民ホールで実施していたときとの違いについても併せてお答えください。

◎県民ホール再整備担当課長

今年度は、県民ホールの休館中においても舞台芸術の魅力を広く届けることを目的といたしまして、ファンタスティック・ガラコンサート2025、愛の贈り物と銘打ち、12月28日に小田原三の丸ホールで、1月11日には鎌倉芸術館で開催いたしました。実績といたしましては、小田原会場は834人、鎌倉会場は819人の来場があり、合わせて1,653人の方に鑑賞いただきました。

また、これまでとの違いでございますが、年末の1回の開催だったものを、多くの方に楽しんでいただくため、年末と年始に別会場で2回実施したことに加え、これまでオーケストラ、オペラ、バレエの三つを堪能できる構成となっていたプログラムを今年度はバレエを中心にオーケストラとギターによる演奏を組み合わせた構成に変えて、開催いたしました。

◆藤井深介委員

そこでは、特に上野水香さんがバレエで踊っておられて、非常に私も感銘を受けましたけれども、観客からの反響というのはどうだったのか、分かっている範囲で結構ですけれども、ちょっと教えていただければと思います。

◎県民ホール再整備担当課長

来場者のアンケートでは、おおむね好評でございまして、初めて来た方にも毎年来られている方にも楽しんでいただけた様子が伺えました。具体的には、初めての鑑賞だったがオーケストラとバレエの共演でとても楽しめた、神奈川県民ホールが休館になりどうなるかと思ったが近くで開催してくれてよかった、最初はオペラ歌手がいなくて少し残念に思ったが今回のように演奏とバレエだけというのもまとまりがよくてよいといった声が寄せられました。

◆藤井深介委員

私も同じようなことを感じました。

今年度のファンタスティック・ガラコンサートですけれども、今、課長のほうから答弁いただきましたけれども、小田原と鎌倉で開催したと。年末と年始ということですね。この二つの地域をまず選んだ理由について教えていただけますか。

◎県民ホール再整備担当課長

県では、県民ホール休館中も県民の皆様の鑑賞機会を確保していくため、これまで行われてきた催しを県内各地で開催しており、鎌倉市と小田原市でのファンタスティック・ガラコンサートもこうした取組の一環でございます。

この地域展開事業は、全県的に展開しているものですが、2025年の東アジア文化都市に鎌倉が選定されたことを受け、今年度は、鎌倉市を含む相模湾沿岸地域を中心に実施しております。こうした理由から、今年度のファンタスティック・ガラコンサートについては、相模湾沿岸地域の中で公演を行うこととし、できるだけ多くの方に鑑賞いただけるよう会場の規模等を考慮いたしまして、鎌倉市と小田原市の文化施設で開催いたしました。

◆藤井深介委員

今、御答弁いただきましたけれども、今年度は、相模湾沿岸を中心に事業を展開しているということなんですけれども、この地域のほかに開催された事業にはどういったものがあるのか、伺います。

◎県民ホール再整備担当課長

まず8月に茅ヶ崎でパイプオルガンのコンサートを行いました。11月には藤沢市でのオペラ公演ですとか、葉山町などでジャズコンサートを開催するとともに、12月には真鶴町で写真展も実施いたしました。

また、今月1日には鎌倉市の鎌倉宮という神社で、どこでも音楽便と銘打ち、屋外である境内にトレーラーハウスを設置いたしまして、そこをステージに見立てて、バイオリンとピアノによるコンサートを開催したところです。このどこでも音楽便は、明日7日に二宮町のみらいはらっぱで、15日には大磯町の大磯漁港でも開催する予定ですが、この二つの会場では、地域のイベントに併せて実施する予定となっております。

◆藤井深介委員

今、御答弁いただきましたこのどこでも音楽便、屋外で行われる公演ということなんですけれども、これまでの屋内で演奏、通常はそうなんですけれども、行うものなんですけれども、勝手が全然違うし、ある程度のこの箱の中、トレーラーもそうですから、ちょっと今までと勝手が異なるんじゃないかと思うんですけれども、この実施に当たって苦労したこととか、ちょっと工夫したことがあれば、教えてください。

◎県民ホール再整備担当課長

屋外のスペースにトレーラーハウスを設置することになりますので、もちろん

ん設置場所の問題というのもございますが、それ以外にも、音出しの際、近隣に配慮する必要があること、また天候に左右されること、こうした様々な課題がございます。

そのため、会場の選定は慎重に行った上で、事前に会場周辺の方々に説明を行うなど、地域の方との調整は、丁寧に行ってまいりました。また演奏に使用する楽器を濡らすことができませんので、急な雨天に備えた対応をマニュアル化するなどの準備を行ったほか、鎌倉で実施した際には、観光地かつ細い路地が多いことから、トレーラーハウスの進入経路について関係各所と事前調整が必要でした。

◆藤井深介委員

今、答弁の中でもありましたけれども、二宮町と大磯町でも開催されるんですけども、今いろいろお話伺っていると、結構細かくこう詰めていかないといけないし、注意しなきゃいけないことが数多くあるんですけども、この開催地域とはどういった形で連携しているのか、そういう点があれば教えてください。

◎県民ホール再整備担当課長

二宮町と大磯町には、どこでも音楽便の企画時から、町役場等に財団が何度も足を運びまして、行政と地域団体の双方に聞き取りを行い、設営場所や内容等のすり合わせを行って、地域のイベントにマッチした催しになるよう調整を重ねてきました。さらに、円滑に事業が実施できるよう、近隣住民にイベントの案内を地域団体と一緒に配付いたしまして、イベントの周知を図るとともに、音の出る催しであることについて理解を求めました。

◆藤井深介委員

様々理解を得ながら進めてきているということで、いろんな御苦労はあると思うんですけども、こういった事業、結構細かく入っていけるこういった事業というのは、ぜひ来年度以降も続けていただきたいなと思うんですけども、もし来年度の実施内容が決まっていたら、教えていただけますか。

◎県民ホール再整備担当課長

まず、ファンタスティック・ガラコンサートについては、恒例行事として、毎年楽しみにしている方も多いことから、来年度についても実施したいと考えており、今年度とは別の二つの会場で実施する方向で、調整を今しているところでございます。

また、ほかの地域展開事業につきましても、県内各地で実施する予定となっておりまして、来年度は、県央地域及びその周辺地域に力を入れて開催していくことを考えておりますが、開催場所や催しの内容など詳細については、現在検討を行っているところでございます。

◆藤井深介委員

それでは、県民ホールが休館となっている中で、そういった最中ではあっても、県民の文化芸術の鑑賞機会は、確保していかなければならないというふうに思っています。特にガラコンサートなど地域展開事業を通じて、今後どのように文化芸術の振興を図っていくのか、県の考えをお聞きしたいと思います。

◎県民ホール再整備担当課長

この地域展開事業をきっかけに、これまで県民ホールに足を運ぶことが難しかった方や、あまり関心のなかった方にも、本県の文化芸術の魅力を届けられるよう、今年度実施できなかった地域も含めまして、様々な地域で事業を展開していきたいと考えております。

今年度、事業を実施してきた中で、地域の自治体、文化芸術団体との新たな関係が築けた一方、集客につながる広報の方法や地域ごとのニーズの違いなどの課題についても明らかになってきました。来年度に向けては、地域の意見、要望を伺いながら、こうした課題に向き合うとともに、その会場に合った効果的な手法で公演等を実施することで、県民ホールが休館中においても多くの方に文化芸術を楽しんでいただけるよう取り組んでまいります。

◆藤井深介委員

分かりました。

要望ですけれども、県民ホールの休館期間中に様々県民ホールで行っていたそういう催し物、公演を県内各地でやるということで、またガラコンサートの話に戻りますけれども、私自身が考えて、今までの県民ホールのステージと、私が鑑賞させていただいた小田原の三の丸ホールとは、やっぱり当然、広さも違うそういった中で、演者の方と観客席とのその短さというんですかね。本当に、そのステージの音がはっきり響いて聞こえると。そういったところもあり、また当日、バレエの上野さんが言われていましたけれども、広さに応じて、演者のほうも工夫していかないといけないということで、また新鮮な感覚というんですかね、そういうようなこともおっしゃっておられたので、これはまた演者の皆さんもそうだし、また鑑賞する側も、そういった意味では県民ホールとまた違う新鮮さを感じたんだろうなというふうに思います。

特に、観客との近さというのは、やっぱりなかなか、これも当然広さが関係しますので、県民ホール、また新しくなっても、そういうふうなことが戻るんだろうけれども、またそういう工夫は、ぜひ県のほうでもしていただきたい。その短さとかね、距離感をもっと狭めていけるような、そういうふうな工夫をしていただきたいというふうに思います。

そういった意味で、いいものを見ようとすると横浜に行かないと駄目みたいなことがなくて、むしろ神奈川県内いろんなところでも、ちょっと確かにステージの狭さもあるので、準備するものとかそういうのは少なくなるかも分からないし、オーケストラの人数も減らさなきゃいけないとか、様々制約はあるんでしょうけれども、やっぱりいいものは本当、身近に鑑賞でき、そういうことも実感できるというのは、これはもう、大人も子供も関係なく、感動を受けるべきこ

となんだなというふうに、ちょっと昨年末、そういうふうに関にさせていただきます、感じましたので、ぜひ引き続き様々工夫をしていただき、新しい県民ホールの再開館するときの盛り上げにも大いに役立ていただきたいというふうに思います。

私個人としては、新しく県民ホールができたときの、こけら落とし、誰がやるんだろうなということを今考えながら、楽しみにしておりますけれども、ちょっとプレッシャーをかけるか分かりませんが、ぜひよろしくお願いいたします。

それでは次に、神奈川近代文学館における文学振興の取組について伺っていきます。

私、昨年12月の第3回定例会の一般質問で、文字・活字文化に触れる機会を増やす取組について質問を行いました。文字・活字文化の振興は、度々、質問で取り上げさせていただきましたテーマなんですけれども、文字・活字文化の中でも特に文学は、多くの人の考え方や価値観に少なからず影響を与えるものだとして認識しておりまして、文学の魅力を知ってもらうことは大変重要だと考えております。こうした問題意識から、本県の文学振興の中核を担う施設である近代文学館の取組について何点か伺っていききたいというふうに思います。

初めに、近代文学館は、毎年、本県にゆかりのある文学者をはじめとして、様々な作家をテーマにした展覧会を開催しておりますけれども、今年度はどのような展覧会を開催したのか、まず伺います。

◎文化課長

近代文学館では、今年度、個々の作家等を取り上げた特別展、企画展と呼ばれる展覧会を4回開催しております。それぞれ簡潔に説明させていただきますと、まず美術評論の分野でも活躍をした詩人の大岡信展、小説、アカシカの大連で芥川賞を受賞した詩人・作家の清岡卓行展、山月記などで知られる作家、中島敦がパラオに赴任をした際、自身の子供たちに宛てた手紙を紹介した中島敦の手紙展、あともう一つが墮落論、白痴などで知られる作家の坂口安吾展の四つの展覧会でございます。

このほか、近代文学館では、神奈川にゆかりの深い文豪の作品世界を名作の原稿や創作メモなどの資料を通じて紹介する常設展というものも行っておりまして、現在は、芥川龍之介や川端康成、中島敦などを取り上げて、展示を行っております。

◆藤井深介委員

取り上げる作家だとか開催時期によって、観覧に訪れている人の増減というのは、当然あるというふうに思いますが、それぞれ計画された展覧会の観覧者数を教えていただきたいのが一つと、また展覧会でアンケートはいつも取っておられると思いますけれども、寄せられた感想、それから意見があれば、併せて伺いたいと思います。

◎文化課長

先ほど答弁いたしました4回の特別展、企画展の今年度の観覧者数ですけれ

ども、大岡信展が 4,639 人、清岡卓行展が 2,773 人、中島敦の手紙展が 5,286 人、坂口安吾展が 1 万 357 人、合計で 2 万 3,055 人でした。

観覧した方からの意見としましては、作家の人物像、生きざま、作品制作のエピソードなどが丁寧に紹介されていて分かりやすかった、読んでみたい作品をたくさん見つけることができた、作家のファンと文学初心者の両方が楽しめる企画だったなど、専門的でありながらも、文学初心者にも配慮した分かりやすい展示内容を評価する意見を多くいただきました。

◆藤井深介委員

四つの開催で 2 万 3,000 人ということで、非常に、先ほどもお話ししましたがけれども、人数にばらつきはあるというのが、それは本当それぞれだと思うんですけども、初心者でも分かりやすいということでのアンケートのお答えというのは、非常にいいお答えなんだろうなと思いますけれども、展覧会で、一般にはあまり知られていない作家も取り上げられている、案内いただいたときに、ちょっと私も存じ上げないなという方がいらっしゃるんですけども、作家をどうやって取り上げておられるのかなという、ちょっとそのあたりを教えていただけますか。

◎文化課長

展覧会の企画は、近代文学館の指定管理者である神奈川文学振興会が会内で行っています検討会議などで議論した上で、決定をしております。企画に当たりましては、アンケートの意見など来館者からの声を考慮するほか、集客が見込めるか、作家の生誕・没後などの記念の年に当たり効果的な広報が可能かなどの観点から検討を行っております。

また、近代文学館は、学術的に価値のある資料を収集・保存し、それを公開するという役割も担っておりますので、研究の進展が期待されるか、また知名度が低い作家の場合、再評価が進み、作品に興味を持つ人が増えるかといった基準でも企画の検討を行っておりまして、一般にはあまり知られていない作家も展覧会で取り上げることがございます。

◆藤井深介委員

再評価ということで、そういうふうな視点を持っていただいているということで、分かりました。

それでは、近代文学館、展示もさることながら、いつも見させていただく作家のトークイベントとか、それに付随した各種イベントを展開されておるんですけども、今年度はどのようなイベントを行ったか、伺います。

◎文化課長

近代文学館では、現役の作家や著名人をお迎えして、展覧会に関連したイベントを開催しております。今年度は、中島敦の手紙展におきまして、作家の高橋源一郎氏を講師に迎えた講演会、また坂口安吾展で、俳優の長塚京三氏による朗読会を開催しております。また、文学のジャンルに捉われないで気軽に参加できる

イベントとして、映画鑑賞会や朗読コンサート、子供を対象とした紙芝居などを定期的に開催しています。

さらに今年度は新たに、実際に詩を音読することで詩の魅力に触れる現代詩入門、書く魅力や楽しさを学ぶ自分史を書くという二つの講座を開催しております。これはいずれも満席となっております。

◆藤井深介委員

分かりました。

じゃ、この展覧会、イベント、様々な取組を進めてこられて、それぞれまた好評を得ているということはよく分かるんですけども、私以前、質問でも触れてきたんですけども、今の若い世代、1日24時間、皆、限られているんですけども、その中でもスマートフォンと接する時間の長い若い世代の方々、特に中高生、大学生、そうなってくると、文字・活字離れの傾向が非常に進んできているということもあるし、またこれから進むだろうということで、危惧しているわけですが、この近代文学館で実施している展覧会、それからイベントで、この若い世代に興味を持ってもらうためにこういった取組とか工夫を行っているのか、教えていただけますか。

◎文化課長

近代文学館では、若い世代に対して、読書以外のアプローチから文学の魅力に触れていただき、本を手にとっていただけるようなきっかけをつくるべく、これまで取組を進めてきました。その取組として、代表的なものとして、文豪の名前にちなんだキャラクターが登場するコミック・アニメの文豪ストレイドックスと10年前から始めたコラボレーション企画というものがございまして、この企画では、近代文学館でのみ入手可能なオリジナルグッズがもらえるキャンペーンを行っており、コラボレーション企画を楽しみに何度も展覧会に足を運んでくださる方もおります。

ほかにも、若い世代に文学に興味を持ってもらうことを目的の一つとして、今年度、神奈川文化賞・未来賞を受賞された作家の辻堂ゆめ氏をお招きしまして、ちょうど明日になりますが、3月7日に県と近代文学館が共同で記念公演を開催いたします。こちらには、県内の高校生にも参加いただく予定でございます。

◆藤井深介委員

今お話いただきましたけれども、それぞれ近代文学館のほうでもしっかりとアプローチをしていただいておりますけれども、その中高生にアプローチしていくには、さらに学校と連携していくという、これはもう外せないところだというふうに思います。近代文学館が中学校や高校とこういった連携をして、こういった取組をしているのか、伺いたいと思います。

◎文化課長

近代文学館では、県内の中学校や高校と連携をして、夏目漱石、中島敦、太宰治など本県にゆかりのある作家の生涯や、文学の世界を分かりやすく解説した

展示などを学校で行っております。昨年度の実績でございますが、延べ31校で開催をしまして、1万人以上の生徒が鑑賞をしております。そのほかにも県内の高校で活動をする図書委員と共同で、自分の好きな本を紹介し合うビブリオバトルというイベントを開催したり、中学生の社会体験学習を行ったりという様々な取組を行っております。

◆藤井深介委員

分かりました。

先ほど答弁の中で触れておられたんですけれども、アニメなどとの連携事業というのが近代文学館に関心を持ってもらうアプローチの方法として有効だと思いますんで、またそこでしかもらえないようなそういう特典もつけてということで、非常に有効だと思うんですけれども、ほかにもこの近代文学館の枠を超えたコラボレーション企画というのはやっているのかどうか、お伺いしたいと思います。

◎文化課長

まず、先ほど申し上げましたアニメなどの連携のほか、県立歴史博物館等の関内・山手・みなとみらい地区の博物館・美術館と連携をしたスタンプラリーの開催、県内の書店や出版社が集まるイベントでの展覧会のパンフレットやグッズの販売、文学館内ではございますけれども、そこで営業するカフェでの展覧会のコラボメニューの提供など、地域の施設や文学関係者などとのネットワークを生かしたコラボレーション企画を行っております。

◆藤井深介委員

様々な企画を行ってきていただいています。そういった中で、この近代文学館が今、先ほどから質疑させていただいていますけれども、若い世代をはじめとして、あらゆる人に文学の魅力を伝える取組を意欲的に取り組んでいただいていると、それは理解させていただきました。

しかしながら、読書する習慣がない、そもそも近代文学館を知らない、根本的なところなんですけれども、こういった人たちもまだまだ多いというふうに思います。様々な工夫を凝らしながら、そうした人々に文学の魅力を伝える取組を進めていることは、これは重要なことだと思いますし、また今現在もあらゆる角度から工夫を凝らしていただいているのは、よく理解しております。

その中で、県が今後、文学の魅力を伝える取組をどのように進めていくのか、最後に伺いたいと思います。

◎文化課長

近代文学館が行ってきたこれまでの取組は、一定の評価を得ていることを県のほうでも認識しておりますけれども、委員から御指摘がありましたとおり、読書習慣がないでありますとか、近代文学館をそもそも知らないといった方が多いというのも事実だと考えております。

そこで来年度、これまで培ってきたネットワークなどを生かしまして、より積

極的な事業展開を図ってまいりたいと考えております。具体的には、近代文学館をさらに多くの方に知っていただくために、今度の3月19日にJR関内駅前に開業する複合施設内にオープンをする書店におきまして、近代文学館の展覧会と連動した展示や、所蔵資料を活用したオリジナルグッズの販売などを実施する予定です。

また、先ほども触れさせていただきましたが、文豪ストレイドッグスとのコラボレーションについてですけれども、ちょうど今年、アニメ化の10周年ということに当たるということを知っておりまして、その10周年を記念した展覧会の開催が決まっております。こちらには、県内外から多くのファンが足を運ぶということが予想されておりますので、来館をした若い世代に文学の魅力を知っていただくきっかけにしていきたいと考えております。

今後県は、近代文学館の指定管理者を担う神奈川文学振興会と連携をしまして、新たな企画にもチャレンジをしながら、文学の魅力を伝える取組をしっかりと進めてまいります。

◆藤井深介委員

それでは、要望というか意見なんですけれども、様々、今度は関内駅前でね、そのような一人でも多くの人に見ていただけるような、また周知できるようなそういうような取組をしていただいているということで、非常に心強い限りなんですけれども。

冒頭で、今年度のいろいろな企画、四つ紹介していただいたので、ちょっと私も御縁がなくて行けてはいないんですが、一番近いところでも2年前ですかね、橋本治展に行ったんです。本当にあの、若い方々なんかも、見ていただいたら面白いなと思うんですけれども、その作家の、橋本治の生きざまもそうなんですけれども、いろいろやってきたこともそうなんですけれども、橋本治さん自体が編み物が好きで、自分の編んだやつを展示したりとかいうところで、近代文学館と、ちょっと今までとイメージが違うなというのがあって、様々交友関係も幅広いこともあったので、ああいうのを鑑賞されると、また若い方々も、イメージもがらっと変わってくるのかななんか思ったりもしました。

そういった意味で、やっぱりできるだけ、こういうのをやっているよということとは、ぜひとも一人でも多くの方に周知していただいて、実際、近代文学館に足運んでさえくれば、また新たな、その人の受け止め方というのも一気に変わってくるというふうに思いますので、ぜひ工夫凝らしてですね。今後、その、作家さんのお話もありました。さっき、生誕とか没後ということもあって、私も次の山本周五郎展、また何年待てば次来るのかなというので、50周年の、次いつなんだみたいなことはあるんですけれども、そういったところもいろんな角度で考えていただいて、ぜひ引き続き御尽力いただければと思いますので、よろしくお願いをいたします。

それでは次に、高齢者の運動・スポーツ活動について伺っていききたいと思います。

昨年の東京2025デフリンピック、そして今回、ミラノ・コルティナ2026冬季オリンピック・パラリンピックとこれからパラリンピックもあるんですけれ

ども、スポーツの国際大会が続いてきておりまして、トップアスリートたちのすばらしいパフォーマンスに多くの人々が感動を覚えて、自分も挑戦してみようと、やってみたいと感じた方も多いというふうにも思うわけですが、これは子供や若者に限ったことではなくて、高齢者にとっても同様に、前向きな刺激を受けている方も多いというふうに思います。

部活動の地域展開だとかプロスポーツチームとの連携など、若い世代のスポーツ活動については、本常任委員会をはじめとして様々な場面で議論されてきておりますけれども、人生 100 年時代と言われて久しい中、高齢者の運動やスポーツ活動についても、その意義や効果に着目して、推進していく必要があるというふうに考えております。

そこで、高齢者の運動・スポーツ活動について伺っていきたいと思っております。それで、まず高齢者がどの程度、運動やスポーツを行っているのか、スポーツ実施率をほかの年代との比較も含めて確認をさせていただきます。

◎健康・パラスポーツ推進室長

昨年度実施いたしました県民の体力・スポーツに関する調査の中で、この 1 年間で 1 日 30 分以上の運動・スポーツをどの程度行ったかを尋ねたところ、成人の週 1 日以上スポーツ実施率は、全体では 46.6%という結果でした。これを年代別に見ますと、20 代から 50 代までは 40%台の前半で、具体的には 20 代が 41.1%、30 代が 43.7%、40 代が 40.2%、50 代が 41.1%となっておりますが、これに対しまして、60 代は 50.0%、70 代以上は 57.3%と総体的に実施率が高くなっています。

◆藤井深介委員

働き盛りの世代に比べて、高齢者は運動・スポーツに積極的に取り組んでいるということなんですけれども、日常的にこういったスポーツを楽しんでおられるのか、教えていただけますか。

◎健康・パラスポーツ推進室長

同じく昨年度の調査結果ですが、1 年間に行った運動・スポーツの種目を尋ねたところ、60 代と 70 代以上で一番多かった回答は散歩を含むウォーキング、2 番目は登山・ハイキング、3 番目は 60 代では軽いエアロビクスダンスやヨガ、70 代以上は体操となっております。

◆藤井深介委員

50 代でも体操を、レッスンを受けている方、いらっしゃると思うので。

今、御答弁いただいたウォーキング、それから体操ということで、気軽に楽しめる運動が多いというふうにも感じました。高齢者が運動・スポーツする理由といえば、一番には健康づくりというふうに私自身は思うんですけれども、そのほかこういった目的とか効果があるとお考えですか。

◎健康・パラスポーツ推進室長

同じく昨年度の調査結果ですが、60代以上の方がスポーツを行った理由や、スポーツを行った効果として多い回答は、多いほうから順に、健康・体力づくり、運動不足の解消、楽しみや気晴らしが上位となっており、こちらは全ての年代で共通して同様の結果となっております。

高齢者の回答として、特徴的な点といたしましては、友人や仲間との交流という回答は、いわゆる働き盛りの世代と比較して高くなっており、社会参加のための一つのツールとなっている状況が伺えます。

◆藤井深介委員

自らの体力づくりもさることながら、友人や仲間との交流ということなんですね。すけれども、そういった意味でちょっと現状は理解をいたしました。

次に、来年度予算についてなんですけれども、本委員会に付託された来年度当初予算案では、高齢者スポーツ費として3,800万円余りが計上されているんですね。このうち、ゆめかながわシニアフェスタについて具体的な内容を教えてください。

◎健康・パラスポーツ推進室長

ゆめかながわシニアフェスタですが、高齢者の日頃の健康づくりや、スポーツ活動・文化活動の成果を発表する機会を提供するために実施をしている事業でございます。

具体的には、スポーツ部門の取組といたしましては、かながわシニアスポーツフェスタとして、各競技団体との共催で大会を実施しており、今年度は、卓球やテニス、ゲートボールなど、31の競技で大会を実施する予定となっております。このほか文化部門の取組といたしましては、福祉子どもみらい局所管となりますが、絵画や彫刻などの応募を展示するかながわシニア美術展を実施しています。

◆藤井深介委員

それでは、同じく高齢者スポーツ費には、ねんりんピックへの選手派遣というのがあるんですけれども、こちらについても具体的な内容を教えてください。

◎健康・パラスポーツ推進室長

本県でも2022年に開催いたしましたねんりんピックですが、正式名称は、全国健康福祉祭という名称で、昭和63年から開催をされております。高齢者の健康の保持・増進、社会参加、生きがいづくりなどを目的として、スポーツや文化種目の交流大会をはじめとした健康・福祉に関連する様々なイベントが実施されます。

来年度は、埼玉県で開催予定となっており、この大会に先ほど御答弁いたしましたかながわシニアスポーツフェスタの記録などを参考に決定されました本県の代表選手を派遣する予定です。来年度予算案では、この派遣に係る選手や役員の交通費や宿泊費の一部を補助するための経費などを計上しております。

◆藤井深介委員

分かりました。

それでは、このシニアフェスタだとか、ねんりんピックに参加されている方がいらっしゃるんですけども、その方々からこういった感想が出ているのか、教えていただけますか。

◎健康・パラスポーツ推進室長

参加された方々からは、シニアスポーツフェスタやねんりんピックが交流の場や生きがいづくりの支援となっているといった趣旨の感想を多くいただいております。具体的には、県内に限らず、全国の同じ趣味を楽しむ方と交流ができる機会となっており、大会をきっかけとした新しい方との出会いが楽しみですとか、自分よりも高齢の方々が参加しているのを見て大会への参加が生きがいとなっている、また県大会への出場が日々のモチベーションアップにつながっているといった感想を頂いております。

◆藤井深介委員

分かりました。

それから、このシニアフェスタだとか、ねんりんピックに出場するというのは、相当アクティブで意識が高い、いろんな考え方があるんでしょうけれども、そういった高齢者の皆さんだと思います。

ただ、より多くの人に運動だとかスポーツ活動を実施していただくためには、まず各地域での取組が重要であるというふうに思います。この点についてどのような取組を行っているのか、伺います。

◎健康・パラスポーツ推進室長

地域におけるスポーツ、レクリエーション活動の中核となる人材として、各市町村では、スポーツ基本法に基づきスポーツ推進委員を委嘱しており、住民に身近な立場から幅広くスポーツの普及活動に取り組んでいただいております。県ではこのスポーツ推進委員の皆さんと連携しながら、各市町村相互の協力体制の確立や推進委員の資質向上を図るための研修会などを実施しており、推進委員の皆様の活動を通じて、地域スポーツの普及を図っております。

またこのほかに、日本レクリエーション協会公認指導者を派遣する事業を行っております。こちらの派遣ですが、派遣先といたしまして、高齢者の健康・体力づくりのために老人クラブや地域包括支援センター等、また子供と高齢者の世代間交流へつなげる機会の創出のために保育園や幼稚園等で実施される敬老の日参観などの行事に、指導者を派遣する取組を行っております。

◆藤井深介委員

それと、これが今聞いていますと、いわゆる遠方のスポーツ施設、充実しているスポーツ施設あるわけですけども、そういったところに行くのもちょっと大変だというふうな方々もいらっしゃると思いますし、また家から出て、外でも

運動するということ自体が難しい方も多いうふうに思いますけれども、そういった方々にどのようにアプローチしていくのか、どのようにしてそういう方々に少しでも楽にというかね、サポートできるような、そういう取組があれば、ちょっと教えてもらいたい。

◎健康・パラスポーツ推進室長

身近な地域や自宅で定期的に取り組める運動として、ラジオ体操の普及推進に取り組んでおります。NPO法人全国ラジオ体操連盟というところがございしますが、こちらと連携をして、スポーツ推進委員向けの研修会で、ラジオ体操指導者講習会などを実施しています。この研修では、高齢者や体の不自由な方でも椅子に座ったまま気軽にできるようにアレンジされたみんなの体操も取り扱っています。

また、多くの市町村では、健康の保持増進や介護予防を目的としたオリジナル体操を作成しており、各市町村へ紹介するとともに、県のホームページにも掲載をして、周知を図っております。

◆藤井深介委員

それでは最後に、県として高齢者の運動・スポーツ活動を推進していく意義をどういうふうに今捉えていて、今後どのように推進していくのか、お伺いします。

◎健康・パラスポーツ推進室長

初めに御答弁いたしましたとおり、60代以上のスポーツ実施率は、ほかの年代を上回っておりますが、スポーツ推進計画で設定した数値目標である70%には到達をしていないため、引き続きライフステージに応じたスポーツ活動の推進に取り組む必要があります。

仕事や子育てを終え、時間にもゆとりのできる円熟期を生き生きと過ごすためには、未病の改善や、健康寿命の延伸、社会参加の促進などは重要であり、スポーツはそのための重要な手段の一つであるというふうに認識をしております。そして何よりも、今回御報告いたしましたスポーツ推進計画では、副題にエンジョイ・スポーツ！とうたっているとおり、誰もがスポーツに親しみ、楽しめる機会を提供することで、スポーツが生涯にわたる生きがいづくりにつながるように取り組んでまいりたいと考えております。

◆藤井深介委員

エンジョイ・スポーツ！ということでもあります。ねんりんピックみたいな晴の舞台、本当に日頃の成果を発揮できるようなそういう晴の舞台も必要。そしてまた、日々自分の身近な場所で健康づくりをして、また新たな出会いをつくっていく仲間との交流というのも非常に大事だと思います。

そういった中で、これからだんだんお一人様が増えてくるということもあるので、そういう新たに体力づくりをしていったときに、できればパーソナルプログラムとか、そういう人に合ったような、何か提案できるものがあつたらいいか

など。さらに高齢者のスポーツ、体を動かすこと、そういうことにまたさらに興味を持ってもらえるかなというふうに思うものが一つと、先ほどから御答弁いただいたとおり、自分自身がするという部分から、今度、支える側というか、新たにそういう、体を動かしていこう、またスポーツをしっかりやっていこうという人を支えていけるような立場になっていただく、そしてそういうスポーツ人口を増やしていくという、そういうふうな視点というのもまた非常に大事なかなというふうにも思いますので、ぜひそういう視点をまた取り入れていただいて、神奈川県の高齢者のスポーツ、さらに活発に進めていけるようお願いをしたいと思います。